



夏休みバリアフリー 教室 in 宮古島市

小学生27名が参加！

沖縄総合事務局では、高齢者、視覚障がい者、身体障がい者の疑似体験や介助体験等を通じてバリアフリーについての理解を深めてもらうとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者、視覚障がい者等に対し「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指し、平成13年度以降バリアフリー教室を開催しています。

今年度は、8月13日に宮古島市でバリアフリー教室を開催しました。当日は、宮古島市内の小学校2年生から6年生までの児童、合計27名が参加しました。宮古島市は平成25年度に県内で初めて「バリアフリー基本構想」を策定し、バリアフリー化の推進に取り組んでいます。宮古島市中央公民館で座学のあと、バリアフリー基本構想で重点整備地区内に含まれ、整備を実施しているカママ嶺公園に移動して、ノンステップバスの乗降や展望台への移動に関する体験学習を行いました。当日は宮古島市、宮古島市社会福祉協議会、株式会社八千代バス・タクシー、沖縄県立宮古総合実業高等学校からの協力を得て、開催しました。

児童からの感想

体験を終えて児童からは「今まで車いすなどを使う人の苦労とか知識は全く知らなかったけど、今回体験して自分が車いすを動かす時、坂だとキツイと思いました。困っている人がいたら自分から率先して手伝いたいです。」「障がい者や高齢者が色々な不便な事があることが分かったので、次からは自分から進んでサポートしていきたい

と思った。」「目の不自由な人や障がいのある人の立場になって考えたいと思った。」「車いすが使えるスがあることが分かった。」など疑似体験で学んだ感想を話していました。

や設備、ノンステップバスなどが障がい者や高齢者等にも利用しやすいように整備されている事やどういった役目をしているのか学んでもらいました。体験教室終了後は夏の青空のもと汗を流しながら体験教室に参加してくれた児童に修了証を交付しました。

沖縄総合事務局は、今後も「バリアフリー教室」の開催を通じて、より多くのみなさまにバリアフリー化社会の実現についての理解を深めて頂くとともに、「心のバリアフリー」を積極的に推進していきたいと思っています。



車いす体験



高齢者疑似体験



アイマスク体験



修了証交付



座学